

施策マネジメントシート(令和元年度目標達成度評価) シート1 作成日 令和 2 年 10 月 1 日

施策体系

政策名(基本方針)	2	福祉の健康	施策名	7	高齢者の自立と支援体制の充実
-----------	---	-------	-----	---	----------------

施策統括部	健康福祉部	関係課
施策主管課	高齢者支援課	

1 施策の目的と指標

対象	高齢者	意図	住み慣れた地域で生きがいのある自立した日常生活を営むことができる
----	-----	----	----------------------------------

成果指標

名称		単位
A	住み慣れた地域で生活できていると感じる高齢者の割合[市民アンケート]	%
B	生きがいがあると答えた高齢者の割合[市民アンケート]	%
C	要介護認定者数[別指標]	人

2 指標等の推移

成果指標	26年度 現状値	数値区分	28年度	29年度	30年度	1年度	評価	背景として考えられること	
A	%	79.2	成り行き値	78.6	78.4	78.2	78.0	○	介護保険サービスや介護予防・日常生活支援総合事業及びインフォーマルサービスなど、在宅で利用できるサービスが増えています。
			目標値	79.2	79.5	79.8	80.2		
			実績値	82.3	91.3	82.9	85.2		
B	%	78.2	成り行き値	76.2	75.2	74.2	73.2	○	高齢者が参加することができるボランティア活動や地域サロン及び通いの場など、社会参加の機会が増えています。
			目標値	80.8	80.8	80.8	80.8		
			実績値	80.0	78.3	82.9	81.8		
C	人	2,387	成り行き値	2,498	2,496	2,598	2,700	○	要支援者と65歳以上の高齢者が参加できる介護予防・生活支援サービスや一般介護事業を提供することで、目標を達成できました。
			目標値	2,478	2,476	2,578	2,680		
			実績値	2,497	2,557	2,554	2,611		

※【評価】 ○;目標達成 △;目標をほぼ達成(-5%) ×;目標を未達成

事務事業数・コスト		28年度	29年度	30年度	1年度		
事務事業数		本数	18	18	18		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	906,242	901,187	912,219	971,511
		都道府県支出金	千円	690,523	708,794	590,020	607,195
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	1,928,474	2,010,909	2,013,468	2,152,370
		繰入金	千円	508,309	513,384	523,430	567,431
		一般財源	千円	694,898	777,111	875,234	895,515
	事業費計 (A)		千円	4,728,446	4,911,385	4,914,371	5,194,022
	(A)のうち指定経費		千円	4,466,016	4,633,348	4,789,022	4,963,539
(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円	1,133	1,380	1,062	945	
人件費	延べ業務時間	時間	590	15,221	17,146	17,057	
	人件費計 (B)	千円	2,205	60,214	67,582	67,597	
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,730,651	4,971,599	4,981,953	5,261,619	

施策マネジメントシート(令和元年度目標達成度評価) シート2 高齢者の自立と支援体制の充実

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】施策の方針

- ・高齢者の地域支援体制を推進します。
- ・高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進します。
- ・高齢者の自立支援と介護予防を推進します。

【2】協働によるまちづくりの具体策(市民と行政の役割分担)

ア)市民(事業所、地域、団体)の役割

- ・市民は、高齢者を理解して支えます。
- ・高齢者は、地域の活動(老人クラブ、地域サロン等)に参加します。また、自分の生きがいや趣味をみつけます。
- ・地域、団体は、高齢者にサークル活動や地域活動への参加を促します。
- ・高齢者は、制度(介護保険・地域支援事業)を活用します。
- ・シルバー人材センターは、高齢者の再雇用を進めます。
- ・市民は、生活・介護支援サポーターに登録し活動します。

イ)行政の役割(市がやるべきこと)

- ・市は、市民へ高齢者を支援するための啓発を行います。
- ・市は、各種団体(シルバー人材センター、老人クラブ、地域サロン等)への支援を行います。
- ・市は、高齢者を支援するための各種事業を実施し、介護保険事業の運営を行います。
- ・市は、高齢者の能力を活用できる場や制度の提供(シルバー人材センター等)を行います。

【3】成果指標の目標設定とその根拠(上段)・成果指標の測定企画(下段)

A	住み慣れた地域で生活できていると感じる高齢者の割合の成り行き値は、今後も高齢者人口、特に後期高齢者人口の増加が見込まれることから在宅生活が困難となる高齢者が増加することが考えられるため、今後減少すると考え、令和元年度を78%に設定しました。目標値は、高齢者数、介護認定者数は増加するが高齢者を地域で支える体制を構築することにより80.2%と設定しました。
B	生きがいがあると答えた高齢者の割合の成り行き値は、一人世帯や高齢者のみの世帯が増加することや過去4年間の実績値からみて、今後減少することが考えられるため73.2%に設定しました。目標値は、介護予防の推進、社会参加の促進を進めていくことで、令和元年度まで80.8%に設定しました。
C	要介護(要支援)認定者は、過去5年間の平均では毎年100人ずつ増加していますが、平成28年度からの介護予防・日常生活支援総合事業の開始により、要支援者が一時的に減少すると予測されるため、成り行き値は令和元年度、2,700人と設定しました。目標値は、介護予防事業の実施により令和元年度、2,680人に設定しました。
D	

施策マネジメントシート(令和元年度目標達成度評価) シート3 高齢者の自立と支援体制の充実

【4】施策の現状と今後の状況変化

(第1期計画策定当初)

- ・平成26年の本市の65歳以上の高齢者人口は12,691人となっており、5年前の平成21年に比べ2,037人(伸び率19.1%)の増加となっています。また、高齢化率で見ると平成21年に19.4%であったものが、平成26年には21.6%となっており、今後も高齢者人口、特に後期高齢者人口の伸びが見込まれます。
- ・高齢者人口の増加に伴い、要介護(要支援)認定者、認知症高齢者の増加が見込まれます。
- ・老人クラブ会員数が年々減少傾向にあります。

【5】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

(令和元年度(平成30年度振り返り)の施策評価における議会意見)

- ①高齢者(幸齢者)の生きがいにつながる取り組みを検討すること
- ②介護を支える介護者のサポートの強化に努めること
- ③単身高齢者の暮らしに役立つガイドブックを作成すること

(令和元年度(平成30年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)

- ①老人会活動内容を含め、現状にあった対策を図ること

4 施策の評価

【1】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

※ 経営方針からの振り返り、貢献度評価の上位の事務事業を記載

(1)令和元年度の経営方針からの振り返りは、以下のとおりです。

①「老人クラブやシルバー人材センター、関係機関と連携し、広報活動の充実、会員増加に努め、高齢者の地域・社会活動への参加や健康づくり、就労機会の確保などの支援を行う。」につきましては、老人クラブ連合会及び単位老人クラブに補助金を交付し、会の運営に対して支援を行いました。老人クラブ連合会ではシルバーヘルパーの養成、各種スポーツ大会、健康づくり研修会等を開催し、積極的に高齢者の地域・社会活動への参加を行っています。老人クラブの活動を周知するため、嘱託員会議で説明を行い、また自主的に活動している高齢者団体に対し、老人クラブ連合会への加入の働きかけを行いました。みずき台が新たに加入しましたが、黒石が脱会したため、連合会全体の会員数は減少しました。また、高齢者の就労促進のため、介護予防・日常生活支援総合事業である訪問型サービスAをシルバー人材センターに委託し、高齢者宅の家事支援を行うための人材確保に努めました。

②「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者やその家族からの相談等に対して、地域包括支援センターの相談機能の強化及び地域と関係機関と連携した見守り支援体制の充実を図る。」につきましては、認知症地域支援推進員を中心に、認知症の方を支えるささえ愛ネットワーク模擬訓練、認知症家族のつどい、認知症カフェ等を行い、認知症に対する理解を深めるとともに、地域の見守りネットワークづくりに努めました。また、「初期集中支援チーム」を2つの病院に委託し、認知症高齢者の支援に早期に対応するために連携を図りました。また、地域包括支援センターの相談機能強化を図るため、社会福祉士を1人増員し迅速な対応に努めました。

③「生活圏域での地域課題に対応した通いの場の確保や高齢者の利用ニーズに応じた地域資源の開拓など、フレイル対策や生活支援サービスを提供できる仕組みづくりを進める。併せて、運営するスタッフの人材育成に努める。」につきましては、介護予防教室として、こうし健脚塾や音楽サロンの開催、いきいき百歳体操の普及を行いました。また、高齢者の居場所づくりを進めるため、生活支援コーディネーターを中心に作成した「通いの場マップ」の周知に努めました。2月には地域げんきフォーラムを開催し、老人会や高齢者サロン等、地域の活動団体の発表を行い、高齢者が元気に過ごせる地域づくりのための連携を図ることができました。運営スタッフについては、生活支援サポーター養成のための講座を開催し、地域で活動できる人材育成に努めました。

④「筋力や身体活動の低下の疑いがある高齢者の早期発見に努め、リハビリテーション専門職等を活用した総合事業などの適切な介護予防対策に繋げ、要介護状態にならないように努める。」につきましては、介護認定を受けていなくても、基本チェックリストでサービスを受けることができる、介護予防・日常生活支援総合事業を周知し、通所型サービスA、Cの利用促進を図りました。また、老人クラブや地域サロン等で介護予防健診や骨密度測定を実施し、フレイルの疑いがある高齢者に対して、介護予防教室(こうし健脚塾・音楽サロン等)の参加への働きかけを行いました。

(2)事務事業貢献度評価の結果では、令和元年度施策の成果を向上させるために貢献した事務事業として、「高齢者権利擁護事業」「介護予防・生活支援サービス事業」「敬老事業」「高齢者総合相談事業」があげられました。

【2】施策の課題(第1期計画策定当初)

- ・介護保険法の改正を踏まえ、支援が必要な高齢者の様々な状態に対応できるよう、きめ細かな介護予防や生活支援サービスの提供体制の構築が必要です。
- ・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、地域包括ケアの視点から、引き続き地域密着型サービス提供体制の基盤整備への取り組みが必要です。
- ・認知症の方とその家族が安心して暮らせるよう、医療・介護・予防など、市民に関わる機関が連携できる体制づくりや地域全体で支える体制の整備が必要です。

5 施策の令和元年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて 令和2年7月21日)

- ・高齢者の増加に伴い、在宅での生活に不安を持つ高齢者を地域包括支援センターが、きめ細やかに支援していくこと。
- ・地域包括支援センターと民生委員・児童委員、地域ボランティア・事業所等が連携して、高齢者を支援していくこと。
- ・新しい生活様式に沿って、老人クラブやサロン活動など社会貢献できる場を活性化していくこと。

② 総合政策審議会での指摘事項(令和2年8月6日会議及び書面によるまとめ)

- ・新型コロナウイルス感染症により影響を受けた高齢者や老人会への相談支援、活動支援を行うこと。
- ・官民(地域団体等)が連携し、地域の拠点づくりや見守り体制の強化を行うこと。
- ・高齢者の生きがいづくりのための支援、取り組みを行うこと。

③ 議会の行政評価における指摘事項(令和2年9月9日)

- ・老人クラブや、シルバー人材センターと連携し、高齢者の生きがいづくりに取り組むこと。
- ・認知症予防のため、相談機能の強化と支援体制の充実を図ること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 令和3年度合志市経営方針(令和2年10月1日)

- ①地域包括支援センターの事業内容を広く周知を行い、相談支援体制については、総合相談窓口(ランチ)の強化を図るため、見直しを行います。
- ②新型コロナウイルス感染防止の影響を受けている高齢者に対する支援を強化します。
- ③民生児童委員協議会やボランティアセンターとの積極的な情報共有を行い、高齢者の支援を強化します。
- ④老人クラブの活動内容やシルバー人材センターの事業内容を周知し積極的な参加・登録を促します。
- ⑤認知症サポーター養成講座を地域、企業、学校等で開催し、高齢者の見守り体制を強化します。
- ⑥地域全体で介護予防に取り組むことができるように各種出前講座を充実します。